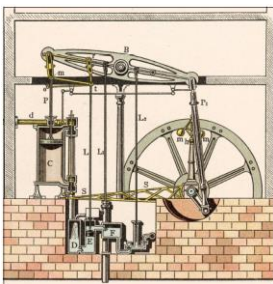


年表 産業革命期における技術革新のまとめ

年	できごと
1710	ニューコメンが排水用蒸気機関を発明
1733	ジョン・ケイが飛び杼 ^ひ を発明
1735	ダービーがコークス法を開発
1764	ハーグリーブズがジェニー紡績機を発明
1768	アークライトが水力紡績機を発明
1769	ワットが蒸気機関①を改良
1779	クロンプトンがミュール紡績機②を発明
1785	カートライトが力織機③を発明
1793	ホイットニーが綿操機 ^{わたくりき} ④を発明（アメリカ）
1807	フルトンが蒸気船の実用化に成功（アメリカ）
1825	スティーヴンソンが蒸気機関車を実用化
1830	マンチェスター・リヴァプール間に鉄道が開通

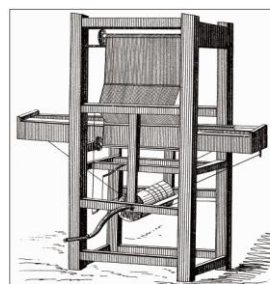
写真提供 ユニフォトプレス



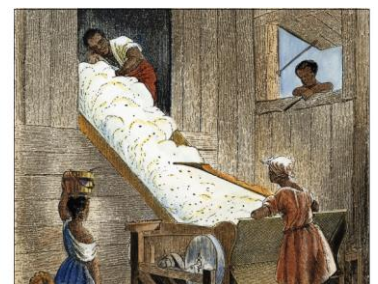
①ワットの蒸気機関



②ミュール紡績機



③力織機



④綿操機

史料 マルクス、エンゲルス『共産党宣言』（1848年）

共産主義者は、その理論を、私有財産の廃止^{はいし}という一つの言葉に要約することができる。個人的に獲得^{かくとく}した財産、みずから働いて得た財産を、……共産主義者は廃棄^{はいき}しようとする、という非難がわれわれに対してなされている。……ところで、賃金労働^{ちんぎん}、プロレタリアの労働は、プロレタリアに財産をあたえるだろうか？ 決してあたえはしない。賃金労働は資本という財産を作り出す。それは賃金労働を搾取^{さくしゅ}するものであり、そしてまたそれは、あたらしい賃金労働を生産してそれをふたたび搾取するという条件がなくては、みずからふえることのない財産である。

『共産党宣言』大内兵衛他訳、平凡社、1951年